

【臨床指標 4】成人市中肺炎の重症度別患者数等

●解説

成人（15歳以上）の肺炎患者さんについて重症度別に患者数、平均在院日数、平均年齢を集計したものです。（市中肺炎とは普段の生活の中で罹患した肺炎を言います。）肺炎は罹患率が高い上、死亡率も高く、悪性新生物、心疾患について国民の死亡原因の上位に位置する疾患です。肺炎の診療には、総合的な対応が求められるため、多職種によるチーム医療が必要な疾患のひとつと言えます。

当院では、肺炎の症例が多いこともあり、市中肺炎・院内肺炎ガイドラインに準じて適正な抗菌薬を選択し、入院期間の短期化・耐性化予防をはかる一方、重症例では人工呼吸管理・栄養管理を含む全身管理を実施し、救命率の向上に努めております。

重症度	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	47人	11.6日	59.7歳
中等症	125人	13.8日	76.0歳
重症	40人	21.2日	80.5歳
超重症	12人	14.3日	78.9歳
不明	2人	26.0日	78.5歳